

Microsoft SQL Server 2000 データベースバックアップ設定マニュアル

< Windows 環境 >

1. 注意事項	1
2. データベースのバックアッププラン作成方法	2
3. データベースのバックアップ	5
4. データベースの復元方法	7
5. データベースのログの圧縮	9
6. データベース復旧モデルの設定	13

1. 注意事項

このマニュアルは Microsoft SQL Server 2000 のバックアップ設定マニュアルです。
Microsoft SQL Server 2005 のバックアップ設定については別紙「Microsoft SQL Server 2005 バックアップ設定マニュアル」をご覧ください。

作業を実施される前に以下の注意事項を確認して下さい。

Administrator 権限ユーザーにて実施を行って下さい。

データベースサーバーにおいて作業を実施して下さい。

WEB サーバー専用のサーバーには実施していただく必要はありません。

バックアップ中はサーバー負荷が非常に高くなり、弊社製品の運用は控えていただく必要がございます。

バックアップスケジュールはお客様の運用形態に合わせてご計画ください。

2. データベースのバックアッププラン作成方法(バックアップ定期実行の設定)

定期自動バックアップの設定を行います。
バックアップスケジュールについてはお客様の運用に合わせて設定してください。

SQL Server Enterprise Manager を起動してください。



対象サーバーのデータベース > 対象のデータベースを右クリックし、
すべてのタスク > データベースのバックアップをクリックしてください。



必要事項を入力し、バックアップの保存先を指定します。

バックアップ先のドライブに十分な空き容量がある事を確認してください。

The image shows three overlapping dialog boxes from SQL Server Enterprise Manager. The top box is the 'SQL Server バックアップ - nidb5' dialog, with 'nidb5' selected in the 'データベース(B):' dropdown and 'ni_backup' in the '名前(N):' text box. The '追加(A)...' button is highlighted. The middle box is the 'バックアップ先の選択' dialog, with 'ファイル名(F):' set to 'C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL\BACKUP\ni_backup'. The bottom box is the 'バックアップ デバイスの場所 - (local)' dialog, showing a file explorer view of the 'MSSQL' folder with 'ni_backup' in the 'ファイル名(F):' field. Red arrows point from text boxes to these specific elements.

弊社製品のデータベース「nidb5」が選択されていることを必ず確認してください。

任意の名前を入力してください。

バックアップ先を選択します。

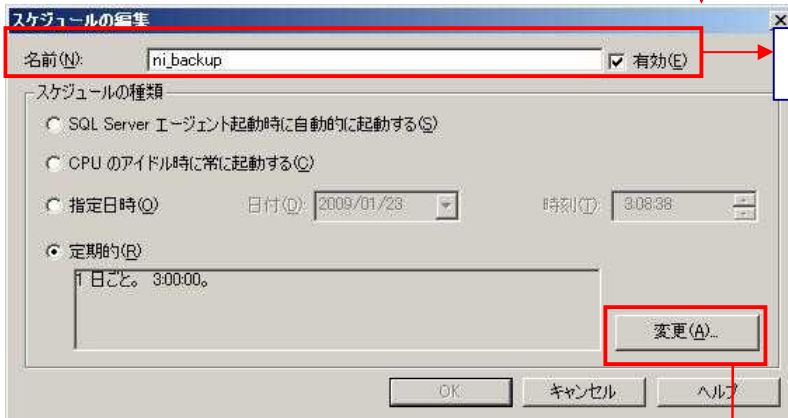
任意のバックアップファイル名を入力し「OK」ボタンを押してください。

「既存メディアに上書き」を選択し、スケジュールを選択してスケジュールを設定してから「OK」ボタンを押してください。

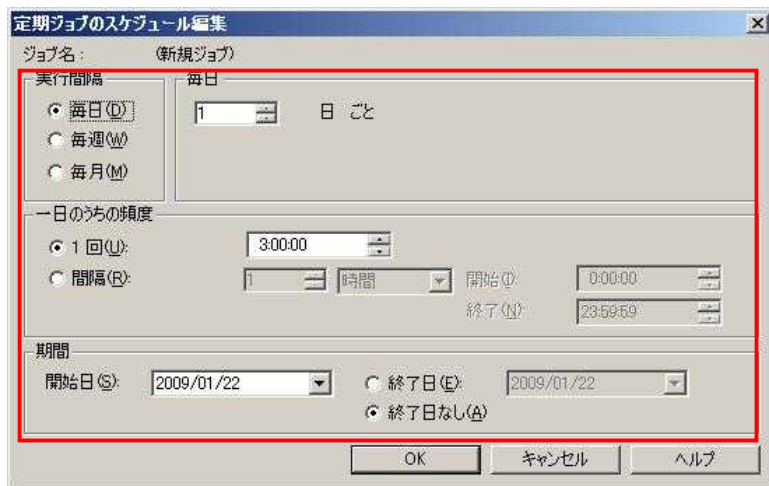


「既存のメディアに上書き」を選択してください。

「スケジュール」にチェックを入れて「…」ボタンで編集画面へ



任意の名前を入力してください。



お客様の運用形態に合わせたスケジュールを設定し、「OK」ボタンを押してください。

3. データベースのバックアップ(即事にバックアップを取る場合)

SQL Server のメンテナンス作業を行う場合など、作業時点のバックアップを取得する場合に参照してください。

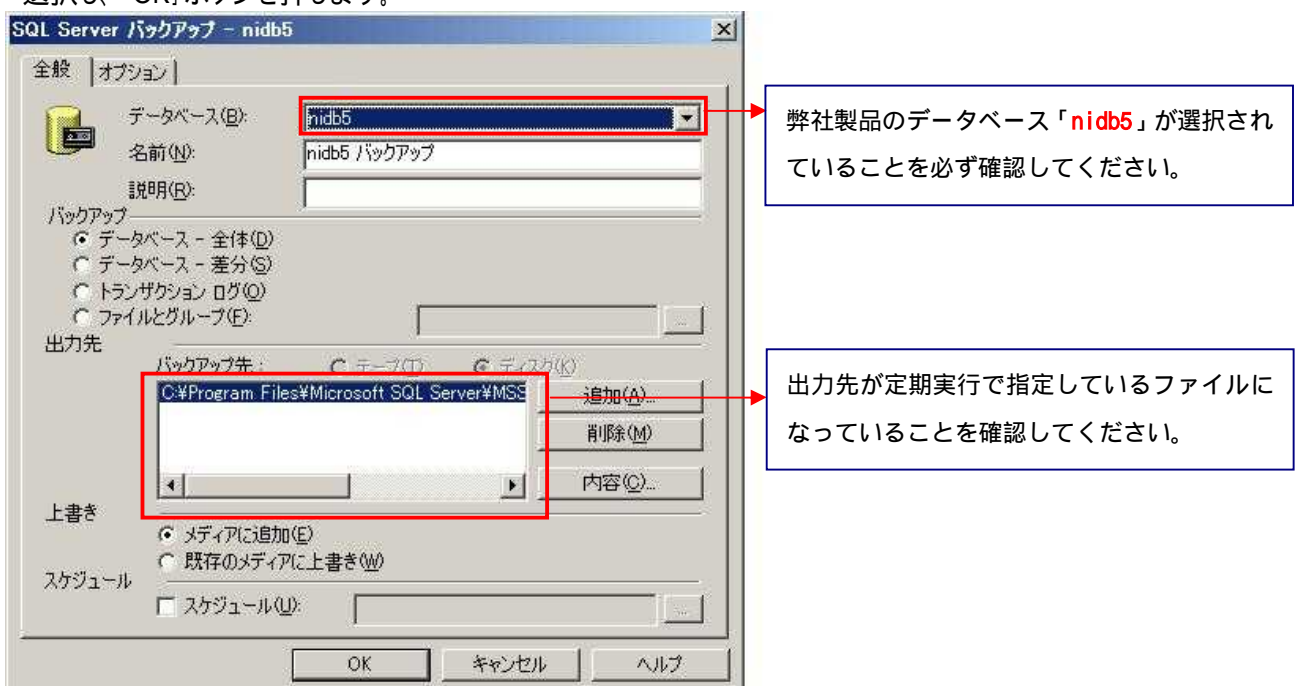
・定期バックアップを保存しているファイルに上書きする場合

『2. データベースのバックアッププラン作成方法』で設定した定期実行のバックアップファイルに上書きします。すでに設定されているバックアッププランを使用するため簡単にバックアップを取ることができます。

SQL Server Enterprise Manager の「データベース」で弊社製品のデータベース「nidb5」を右クリックし、すべてのタスク>データベースのバックアップをクリックしてください。



弊社製品のデータベース「nidb5」が選択されているのを確認し、バックアップで「データベース 全体」を選択し、「OK」ボタンを押します。



・外付けの HDD など直接データベースファイルのバックアップをとる場合

定期バックアップとは別に、外付け HDD など外部メディアにバックアップを取得する場合に参照してください。この作業では SQL Server を停止する必要があるため、作業中は弊社製品を利用できません。ユーザーに対して運用停止の案内を行ってから作業を開始してください。

SQL Server を停止します。

SQL Server Enterprise Manager で SQL Server を右クリックし、「停止」を選択します。



データベースファイルをコピーし、バックアップを保存したい場所にコピーしてください。弊社製品のデータベースファイル「niidb5.mdf」「nidb5_log.ldf」は通常 SQLServer のデータ格納箇所に配置されています。SQLServer を標準インストールした場合、データ格納場所は以下となります。

SQLServer をインストールしたドライブ¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL¥Data

作業が終わったら、SQL Server Enterprise Manager で SQL Server を右クリックし、「開始」を選択します。

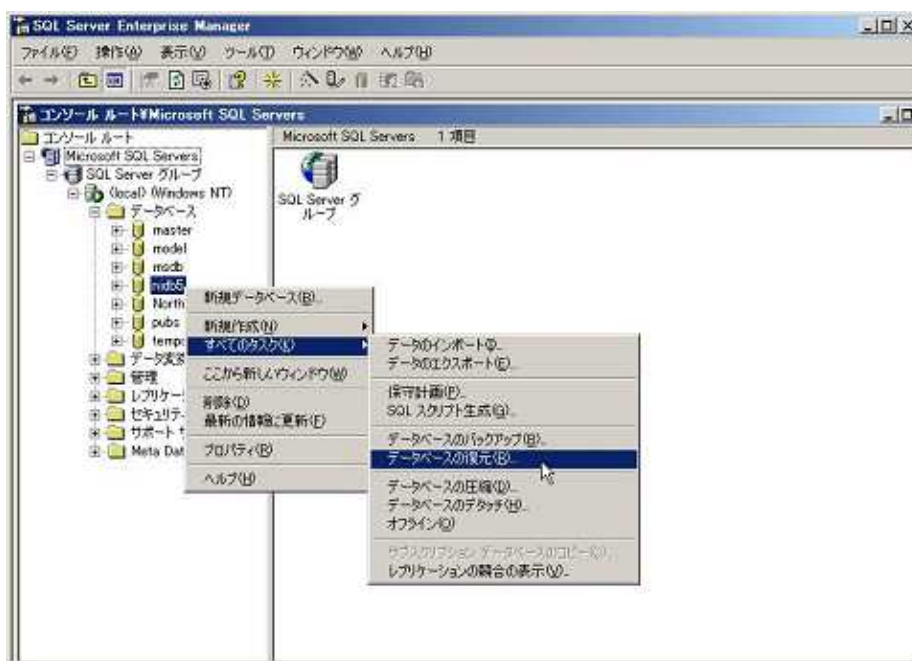
4. データベースの復元方法

データベースを復元する際は、以下の手順によりバックアップファイルより復元が可能です。

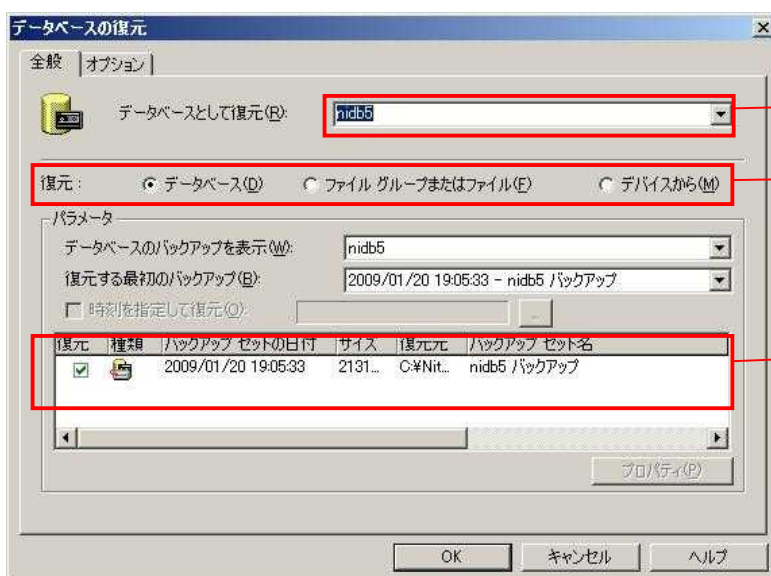
以下は定期バックアップで取得したデータの復元方法の説明となります。

復元を実行している間、弊社製品を利用できません。ユーザーに対して運用停止の案内を行ってから作業を開始してください。

SQL Server Enterprise Manager のデータベースで弊社製品のデータベースを右クリックして、すべてのタスク > データベースの復元をクリックしてください。



各項目が正しく選択されていることを確認し、復元するバックアップを選択し「OK」ボタンを押してください。



弊社製品のデータベース「nidb5」が選択されていることを必ず確認してください。

「データベース」を選択してください。

画面を開いたときには最新のバックアップが選択されています。

ここで選択されているバックアップファイルの時点までデータベース内容が戻ります。最新のバックアップファイルを選択してください。

進行状況が100%になると完了です、復元中はデータベースへのアクセスは出来ません。



正常にデータベースの復元が終了されますと、以下のメッセージが表示されます。以上で、データベースの復元が完了となります。「OK」ボタンを押し、画面を閉じてください。



5. データベースのログの圧縮

データベースのログの容量が大きくなり、ディスク容量を圧迫しているときにはこちらの作業を行ってください。データベースのログを圧縮することができます。

この作業ではWEBサーバーを停止する必要があるため、作業中は弊社製品を利用できません。ユーザーに対して運用停止の案内を行ってから作業を開始してください。

WEBサーバーを停止します。

・Apache をご利用の場合

Windows のスタートプログラムより以下の順番に選択し、Apache を停止します。

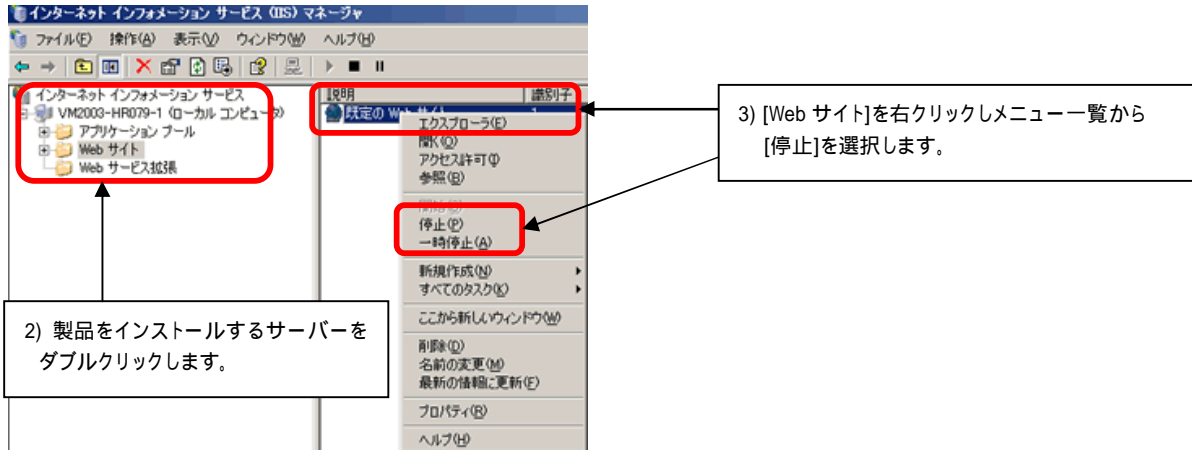
「スタート」「プログラム」「Apache HTTP Server2.2」「Control Apache Server」「Stop」を順に選択してください。OS によっては上記の「Stop」が表示されない場合があります。この場合、Apache のコマンドプロンプト画面を開き、「Ctrl」を押しながら「C」を押してください。



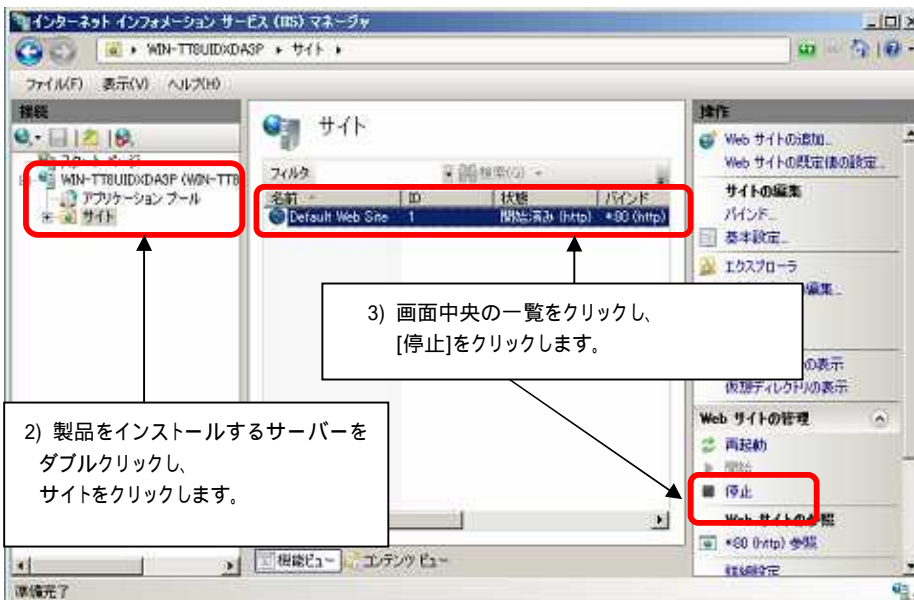
・IIS をご利用の場合

- 1) Windows のスタートプログラムより、「管理ツール」メニューグループからインターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャを起動し、コンソールウィンドウを開いて下さい。
- 2) 製品がインストールするサーバーをダブルクリックし、サイトをクリックします。
- 3) 詳細画面が表示されますので、画面中央の一覧をクリックし、画面右側の Web サイトの管理メニューより [停止]をクリックして下さい。

IIS6 場合



IIS7 の場合



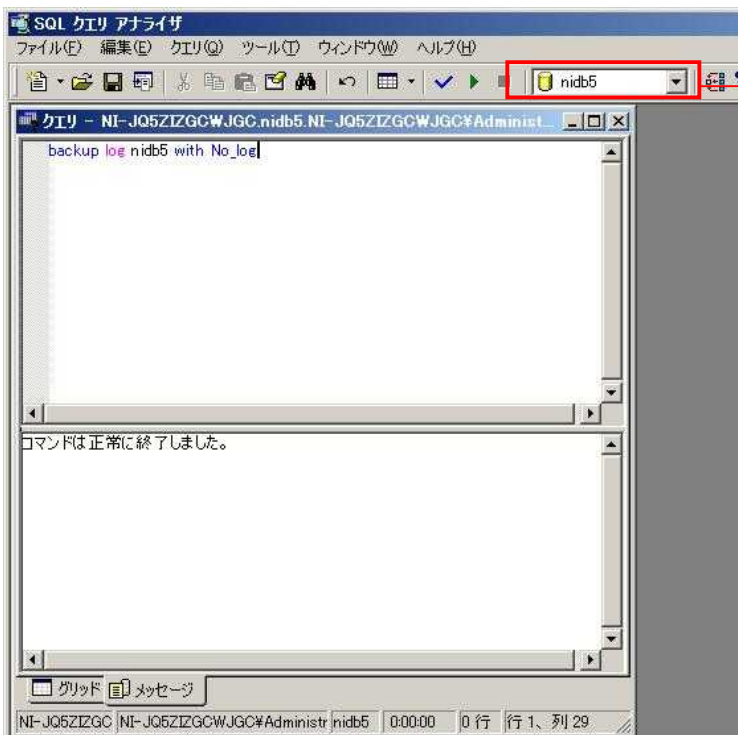
- データベースのバックアップを取得します。
5 ページの「2. データベースのバックアップ」をご覧ください。

SQL Server Enterprise Manager のクエリアナライザより、ログファイルの圧縮を行います。
データベースのログの容量が大きくなり、ディスク容量を圧迫しているときにはこちらの作業を行ってください。
データベースのログを圧縮することができます。

- 1) SQL Server Enterprise Manager を起動し、データベースで弊社製品のデータベース「nidb5」をクリックします。「ツール」をクリックし、「SQL クエリアナライザ」を選択します。

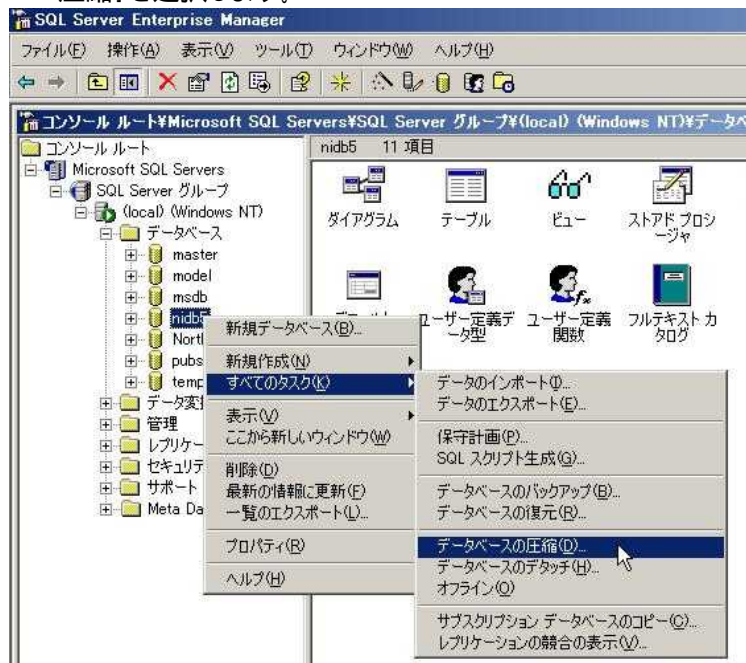


- 2) プルダウンで弊社製品のデータベース「nidb5」を選択し、「backup log nidb5 with No_log」を入力し、実行ボタンを押します。「コマンドは正常に完了しました。」と表示されることを確認してください。



弊社製品のデータベース「nidb5」が選択されていることを必ず確認してください。

- 3) データベース > 弊社製品のデータベース「nidb5」を右クリックし、「すべてのタスク」から「データベースの圧縮」を選択します。



- 4) 以下の画面が表示されますので、「OK」ボタンを押してください。



正常にデータベースが圧縮されると、以下のメッセージが表示されます。

以上で、データベースのログの圧縮が完了となります。

「WEB サーバーを停止する」で WEB サーバーを停止した画面から WEB サーバーを起動してください。

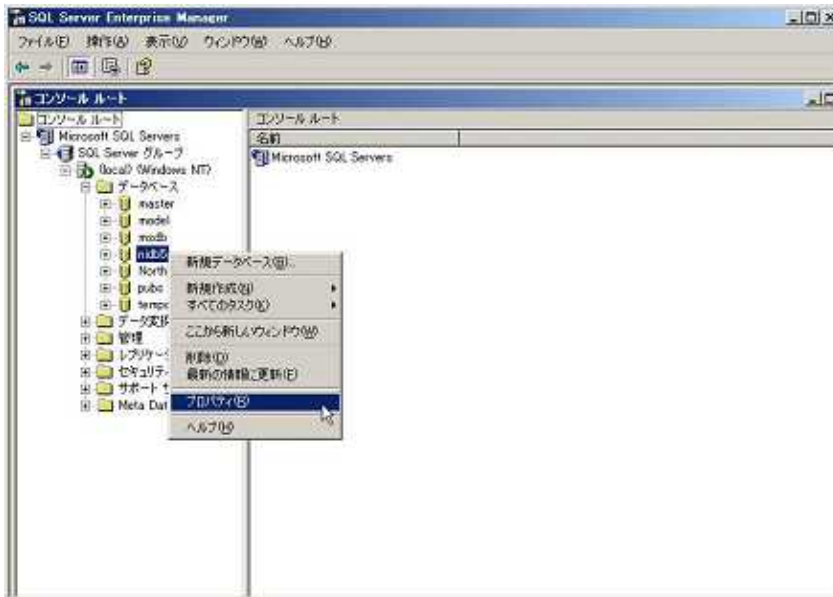


今後、データベースのログファイルの容量が肥大化しないように設定したい場合は、13 ページ「6. データベース復旧モデルの設定」を参照してください。

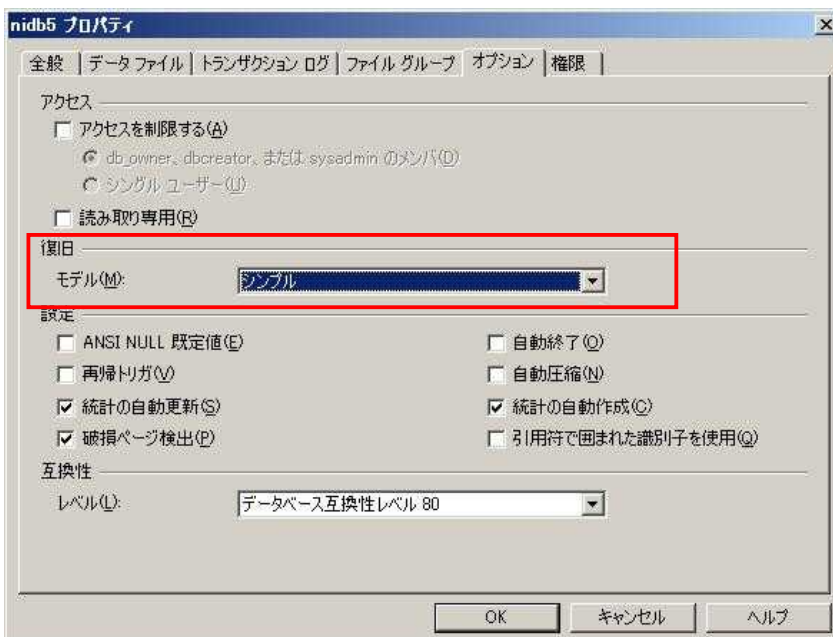
6. データベース復旧モデルの設定

ログファイルの容量の肥大化を防ぐために、データベースの復旧モデルの設定を行います。
9 ページ「5. データベースのログの圧縮」を実施してから以下の設定を行ってください。

弊社製品のデータベース「nidb5」を右クリックして、プロパティを選択してください。



オプション > 復旧 > モデルをシンプルに選択し「OK」ボタンを押してください。



商標

本説明書に登場する会社名、製品名は各社の登録商標、商標です。

免責

本説明書に掲載されている手順による操作の結果、ハード機器に万一障害などが発生しても、弊社では一切の責任を負いませんので
あらかじめご了解ください。

発行

平成 21 年 2 月 9 日 初版

株式会社 NI コンサルティング内 サポートデスク

E-mail : support@ni-consul.co.jp

URL : <http://www.ni-consul.jp/>

FAX : 082-511-2226

営業時間: 弊社休業日、土・日・祝日を除く月曜日～金曜日 9:00～12:00、13:00～17:00